

地区復興まちづくり便りへの意見等 (追加分)

■検討会の進め方・メンバーについて

| | |
|---|--|
| 1 | これから、この町で生きていく人たちの事を考えてほしい。これからは担っていく若い人たちの意見をもっと聞いて欲しい。 (20 歳代 女性) |
|---|--|

■支援等について

| | |
|---|---|
| 1 | 検討会の意見におおよそ賛成です。 非可住地の野中及び野原の土地買い上げについて一日も早く実施してもらいたい 余生の短い年齢では終の住家を欲しいとあせっている。 (70 歳代 男性) |
|---|---|

■移転先について

| | |
|---|---|
| 1 | <p>基本的に田老地区の団地は 2 か所とし、なるべく分散型にしない。 まず南部団地は檜内古田とし、田老地区のそう世帯の 3 割程度が入居する。北部団地は青野滝久木とし、7 割程度が暮らせる規模の団地とする。 今回は、特に北部団地である青野滝久木について少し考えてみたい。 確か昭和 55 年頃だったと思うが、大規模年金保養基地（グリーンピア田老）の基本構想並びに基本計画が策定された。事業費は 200 億円であったと記憶している。その際の青野滝地区開発の青写真には、役場、森の会堂、陶芸工房、ヘリコプター、ソーラーポンド（温泉プール）、人工の池（手の池）、登山鉄道の駅（基地とニドイ漁港の遊覧船を結ぶ）、サイクリングロード、散策路等が配置され、更には現在のグラウンド付近と吊り橋で同地区を結ぶ計画もあった。 このような土地利用から推測すれば、青野滝地区は 50～80ha 程度の平地が確保できるものと推測できよう。 提案は、この大規模な構想を是非参考にし、小堀内地区より旧市街地に近い同地区の優れた立地条件や景観、あるいは飲料水等インフラ整備が効率的に整備できるメリットがある。特に同地区は全域が市所有であるという大きい優位性もある。しかも、同地区は過去に遺跡調査を済ませている。 雄大な自然を大胆に取り入れた夢のある理想的なまちづくりが可能な、この高地の青野滝団地が、一日も早く完成されることを切に願うものである。 かつて、県の補助事業のメニューに「生涯学習の町づくり」というものがあつたように記憶しているが、小、中学校の校舎や校庭も一体的に団地の中に配置できるこの事業内容は、今回の計画にも大いに参考になろう。 なお、北部候補地としては新田地区も考えられる。青野滝地区よりも旧市街地に近いという点では魅力的だが、必要とされる用地確保が無理であり、諦めざるを得ないだろう。 (60 歳代 男性)</p> |
|---|---|

■施設について

| | |
|---|---|
| 1 | 北高校周辺を文教地区として小中学校の集約をするのには反対。川が近くにあり、津波だけでなく大雨などで川が氾濫する可能性もある。子供達の命を守るためにも高台につくるべき。 (20 歳代 女性) |
|---|---|